

7月23日(日) 第二礼拝 「あなたの心の願いは」 IIコリント5章8-10節

全ての人は心の中に願いがあります。誰と会うか、どこに行くか、何を食べるか、何を成し遂げるか等。その願いがどのようなものであるかによって、人生の方向性が決まります。

第一番目、神様の願いです。聖霊様は、神様の願いを私達の心の中に入れてくださいます。ピリピ2:13「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」神様は私達の内面に霊で語りかけ、その願いを行わせるのです。コロサイ1:29「自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」神様の願いは、イエス様の御名があがめられること、そして、私達が救われ、癒され、勝利し、平安が与えられ、義と認められることです。また、みこころが天にあるごとく、私達のうちにもなること、これが主の願いです。主の願いが私達のうちに立てられることで、主が力強く働き、素晴らしい祝福に繋がるのです。

第二番目、天国の望みです。ダビデには一つの願いがありました。それは、詩篇27:4 永遠に主の家に住むこと、御国において永遠に礼拝を捧げることでした。本文8節「私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。」主のみもとにいるということは、私達の体を離れるということ、つまり、死を意味します。しかし、死は終わりではなくて、永遠の御国の始まりなのです。変貌山では、弟子達が御国を体験した後、イエス様と共に山から下りていくと、悪霊につかれた人や救いを必要とする人達が沢山待っていました。弟子達は御国にとどまりたいと願いつつも、彼らにはまだこの地上における働きが残っていたのです。パウロもまた、第三の天を体験し、天の御国に行くことを強く願った者の一人でした。ピリピ1:20-24 パウロは、世を去ってキリストと共にいるほうが、はるかにまさっていると言いつつも、肉体にとどまるのが、救いを必要とする人々のためには、もっと必要だと言いました。私達もまた、この地上において、肉体にとどまる間、主の素晴らしさや救いの素晴らしさを人々に宣べ伝えながら、この地上生涯を主のために捧げ、働き、実を結んでいく者なのです。

第三番目、放棄しない粘り強い祈りです。マーク・バターソン師は『サークル・メーカー、最後まで祈り抜く人が見る奇跡』という本を書きました。彼は、神様からいただいたビジョン(神の御心)についてサークル(円)をかいて祈りました。彼は、自分の伝道したい場所(ワシントンDC)を円を描くように一日3時間歩き、それを15年間継続しました。19名から始まった教会は、現在8か所で7つの神殿(キャンパス教会)が建てられ、70%が20代の青年達で構成されているそうです。私達も主からの語りかけを聞いたら、円をかいて、その場で粘り強く祈ることが重要です。円をかくとは、主がそこに共におられるということです。聖書の約束に、聖霊様がくださる約束に、神様が願っておられる場所に、私たちの心の中に円をかいて祈る時、主が共におられ実を結ぶのです。途中で祈りをやめてはいけません。継続が大事です。神様には不可能はありません。夢を大きく持ち、祈り続けましょう。アーメン！